

## 2015年 年頭挨拶

社長 石井 繁礼

皆さん新年明けましておめでとうございます。2015年の年頭にあたり、海陸従業員の皆さん、またグループ関連会社の皆さんに新年のご挨拶を申し上げます。

昨年末には予期せぬ解散総選挙が行われ自民党が再び勝利を収めました。安倍内閣が改めて国民の信任を得て、アベノミクスを再度展開する土壌が形成されたわけです。大いに期待をしたいと思っています。

しかしながら、昨年を振り返ると日本のみならず世界が遭遇している様々な変化やリスクは、これまでの経験則が通用しない構造的なものに思えてなりません。経済学者の中には資本主義の終焉さえ語り始める人が出てきました。その主張の骨子は社会、経済のグローバル化が進むことによって、市場の均一化が進み、結果として資本主義のベースとなる投資先、フロンティアが無くなり、そして従来の資本主義的発展が望めなくなる、その証左が低金利社会の継続だとしています。

当社の事業においても、何となく閉塞感を感じている人も多いと思います。市場の広がりが期待出来ない時代になったのか、それとも従来どおり景気循環の一過程なのか予断を許しません。しかし既存の事業モデルだけでこれから約5年、10年安定した収益が確保できるかについては、誰もが懐疑的にならざるを得ません。

大手海運もこぞって海運から海洋への投資シフトを声高に言い始めま

した。奇しくも当社が旗印を掲げたオフショア支援船ビジネスもその範疇にあります。来年にせまった日本初の本格的支援船の登場に備えて、11月にオフショアジャパン社は新しい事務所を設けセールスを強化しており、乗組員の確保、訓練にも乗り出す時期が迫っています。

次に各営業部門の課題と展望について語ってみましょう。

シルバーフェリーはシルバークイーンの代替時期が近づいてきました。LNG 炊きフェリーの誕生に向け検討を重ねています。シルバーフェリーが安定した航路展開を行うには、常にお客様に信頼を得て安心して乗船戴くことが必要であり、その為にはサービス面、技術面、そして環境への配慮も含めて時代の先端を行く存在でありたいと思います。もう一つはドライバーの労務管理に適う取組みが喫緊の課題となっており、ダイヤ変更や新たな航路開設も時代のニーズであるのかも知れないと考えています。

内航定期船の分野は大きな転換期を迎えつつあります。事業環境の変化は予想以上に速く、また大きく、専用船ベースの航路展開を現在の規模で維持していくのはいずれ困難になると思われます。そういう環境下、昨年は労務管理の徹底によって一気にドライバー不足が顕在化し、陸上の物流秩序が変化し始めました。それにつれて海上へのモーダルシフトが進みつつあるわけですが、私達は西日本のモーダルシフトの潜在需要を取り込むために、自ら需要を喚起する仕組み作りが必要だと考えています。東日本で貯めた力を如何に西日本に活かすかがポイントになります。その為には新造船の投入と既存船の延命が具体的な方策になります。

当に新しい内航定期船の時代への力勝負であり、総力戦の覚悟を持ちたいと思います。

内航不定期船のテリトリーは当社の事業モデルで唯一今後も長期安定契約の獲得可能な分野です。『やまさくら』を始めとする電力関連船は社会インフラを維持する重要な仕事です。誇りを持って携わりたいと思います。また千津川丸、美津川丸、須寿川丸など既存の事業モデルをベースにこれから 10 年、20 年安定した収益を確保できる新しい事業を開拓することになります。

外航営業部のテリトリーである国際海運市況はリーマンショック後一時的に上昇が見られましたが、その後は深刻な市況低迷が続いています。数年すれば利益水準に戻ると言う人もいますが、それを当てにしていてはこの部隊は早晚埋没することになります。当社は 3 年かけて高コスト船の処理を行い、減損額は 20 億円近くになりました。それでも年々赤字幅は広がっています。これは市況低迷の深刻度を示すことに他なりません。継続的に OLD FASHION 船を減らし、同時に省エネタイプの新型船の投入を行い船隊の合理化を図ってきました。この実行には内外の関係船主の理解を得る必要もあり、我々の決意を示さなければなりません。厳しい環境に曝されている部隊ですが、外航部門を持つことが当社の企業価値を高めていることは明らかであり、不退転の決意でこの合理化を実行していきます。その一方で、海外拠点の見直し、海外オペレーターとの協業等を視野に新たな事業展開も考えて行くつもりです。

以上申し上げたように、私達を取り巻く環境は一昔前と大きく変化し始めています。一つの事業モデルの寿命は 20 年から 30 年と言われていますが、今當に私達は私達自身が変化しなければならない踊り場にあり、これまでの事業モデルに過度に拘泥していると時代に取り残されることになると思います。

我社は来年いよいよ創立 50 周年を迎えることになります。新しい時代へのキーワードは、内航部門は時代を先取りする『変革』、外航部門はたゆまぬ『合理化』です。新しい歴史の扉を私達の手で開けてみましょう。

最後になりますが、このお正月も洋上で過ごされた乗組員の皆さんを含め海上従業員の皆さんに感謝を申し上げ、今年一年も安全運航にご尽力戴けるようにお願いを申し上げます。また、ご家族の皆さんを始め、川崎近海汽船グループの皆さんにとって健康で充実した一年でありますことを祈念して新年のご挨拶と致します。